



夢に生きたん

Takeokadai High School
進路指導部 第 2 号
発行日 R5. 5. 18 (木)

主体的な学習を確立しよう

「主体的な行動」「自主的な行動」。同じような意味の言葉を言い換えているだけだと思っている人も多いのではないのでしょうか。しかし、この2つの言葉の意味は全く違うそうです。

主体的な行動とは“自ら判断して行動すること”を意味し、自主的な行動とは“言われたことを率先して行うこと”を指します。現在の社会では前者が求められているのです。

昨年度から朝課外や1学期中間考査が廃止され、みなさんには朝や放課後そして休日に活用できる時間が増えました。その時間を有効に使えていますか？

課題や予習に率先して取り組んでいる人は、「自主的な学習」が確立していると言えます。この段階にある人は、もう一段階の成長を望みます。それこそが「主体的な学習」です。自ら苦手科目克服のための学習や得意科目を一層伸ばすための学習にも取り組むことができれば、総合的な力が付き、進路実現の可能性が大きくなります。

与えられた課題の提出が遅れがちな人は、まずは「自主的な学習」を目標に掲げて、早期に達成させましょう。自分を高めるために行動した人こそ、志望先への合格に近づくはずです。頑張りましょう。

総合型選抜、学校推薦型選抜とは？

～「+^{アルファ}α」を評価してもらえるチャンス！

皆さんは、共通テストや国公立大学個別試験を乗り越えるための学力をつけられるよう、日々の授業や学習に取り組んでいかなければなりません。「大学全入時代」と言われることもありますが、武台生の大半が目指す国公立大学においては、相変わらず倍率は高いと言わざるを得ません。

大学入試には、一般選抜とは別に「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」があります。受験資格・条件は各大学によって異なりますが、大まかに言えば、「学力+α」を評価してもらえる受験です。国公立大学の「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」、二つの入試システムについて簡単に示します。

	総合型選抜	学校推薦型選抜
評価内容	各大学の「アドミッション・ポリシー（求める学生像）」に適しているか。特色があるか。	学習状況や課外活動など日頃の努力と学力を総合的に評価する。
求められるもの	学力だけでなく、「その大学で学びたい」という受験生の意欲や熱意。高校での実績。	評定平均値に基準があることが多い。 (=学力が要求される)
学校長の推薦	原則不要。	必要。(校内の推薦委員会で審議)
選抜方法	志望理由書・調査書・活動報告書・小論文・面接が多いが大学によって様々である。共通テストを課す場合もある。	書類審査(推薦書・志望理由書・調査書・活動報告書)・小論文・面接・口頭試問が主体。共通テストを課さないものと課すものがある。
出願時期	9月～10月で学校推薦型選抜よりも早い。	11月～。
その他	総合型選抜に不合格のとき、場合によっては学校推薦型選抜に挑戦することもできる。	国公立大学の学校推薦型選抜は <u>一回しか受験できない</u> 。

※総合型選抜、学校推薦型選抜の選抜方法や出願時期は大学によって異なりますので、募集要項をしっかりと確認することが必要です。

「評定平均値?」「+αって?」～早いうちから知っておきたい入試の知識

〔評定平均値とは?〕

「評定」とは、定期考査の結果や授業態度、課題の提出状況などをもとに総合的に評価したもので、通知表に載っている「5・4・3・2・1」のことです。

1年次から3年次のすべての科目の評定の合計数をすべての科目数で割って、小数点以下第2位を四捨五入して求めた数値が3年間の「評定平均値」となります。3年生の場合は1学期末に出される仮評定が使用され、出願時に提出する「調査書」に記載されます。この調査書は一般選抜を含む、すべての受験で必要な書類です。

A	5.0 ~ 4.3
B	4.2 ~ 3.5
C	3.4 ~ 2.7
D	2.6 ~ 1.9
E	1.8 ~

また、評定平均値は左記のように A~E の5段階で成績概評として示されます。総合型選抜や学校推薦型選抜の出願条件として、成績概評 A 以上を求める大学も少なくありません。学校長が特に優れていると認められた場合は⓪をつけることができますが、その⓪を条件とする大学もあります。

評定は前述の通り、定期考査の結果や授業・課題の取り組み状況がもとになります。言わば「毎日の積み重ね」の証です。気を抜いてもよいテスト、適当にやってもよい課題なんて一つもないのだということを心に留めて、毎日の学習に励み、1回1回の考査を大事にしましょう。まずは、新年度スタートの中間考査に全力を尽くしましょう。

〔「+α」って何だろう?〕

総合型選抜や学校推薦型選抜では、受験生の学力だけでなく、それ以外の部分(+α)を評価し、合否の判断材料としています。その時に重視されるのが先にも述べた「調査書」です。調査書には、その生徒がどのような学校生活を送ってきたのかが分かるよう、成績以外にも出欠状況、特別活動の記録などが細かく記載されます。部活動や生徒会活動、検定の取得など、様々なことに取り組みば取り組むほど、記載内容は増えることとなります。逆に、特に何も取り組んでいなければ、調査書に何も書き込めず、空欄のままとなります。総合型選抜や学校推薦型選抜では、調査書の内容をそのまま点数化したり、面接時の参考資料としたりするので、調査書の記載が豊富な受験生ほど有利になるというわけです。また、一般選抜でも活動報告書を提出させる大学や学部もあります。

学力以外として、以下のようなことが挙げられます。

- 部活動での実績
- 生徒会活動（執行委員、専門委員会など）
- 校外のコンクール・コンテスト等の入賞実績
- 継続的なボランティア活動、自発的なボランティア活動
- 総合的な探究の時間などで取り組んだ研究やそのレポート
- 高校時代に取得した検定・資格（英検や漢検、全商検定など）
- インターンシップや国際交流などの諸活動

低学年のうちから充実した高校生活を送ることが、そのまま調査書の充実につながるのです。レポート・感想文・賞状・証明書などは確実に保管し、キャリアパスポートに記録しておくことも、調査書・活動報告書を充実させるためには大事なことです。